

白藍塾オリジナル

2011入試小論文分析&解答のヒント

2011年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・樋口裕一・大原理志・大場秀浩

●慶応・商学部

今年度も、従来の商学部らしい問題ばかりだ。難易度もそう高くない。課題文の読解力と、論理的なセンスがあれば、十分解答できるはずだ。

Iは、ポパーの多元的实在論を説明した文章。

問1と問2は、「世界1」「世界2」「世界3」の違いがきちんと理解できていれば、ほぼ間違いない。世界2と世界3の違いが多少難しいが、客観的な知識や情報が「世界3」で、それをどう感じたり思ったりするかが「世界2」、と考えばよい。問1の(17)～(20)のあたりで多少とまどうかもしれないが、ここで問題になっているのは「世界2」と「世界3」、つまりあくまで人間世界における主観と客観の相互作用だ。

問2は、「身体」「物質」が「世界1」、「感情」「欲望」が「世界2」に当てはまる項目で、あとはすべて「世界3」の項目だ。これも、「世界1～3」の違いがわかっているならば、難しくはない。

問3は、普遍言明というのは「時空間に制限のない言明」というわけだから、すべての時空間のカラスを観察することは、有限な存在である人間には不可能であることを説明すればよい。

IIは、世論調査の問題点について説明した文章。

問1は、簡単な計算問題。

問2と問3は、大麻を吸うことが不法行為であることを考えれば、すぐにわかる。通常の調査方法だと、調査員の目を気にして、正直に答えられない人が一定数いる可

能性があるわけだ。それに対して、回答のランダム化を行えば、「はい」と答えても、本当に大麻を吸ったことがあるかどうかを調査員にはわからないので、正直に答えられる。そういうことを、それぞれ字数に合わせて説明すればよい。

問4は、選択肢の項目分けが不適切だった、ということ。

Ⅲは、「他人の痛みは本当にわかるか」という有名な問題について説明した哲学者の文章。

問1と問4は、ほぼ問題ないだろう。

問2については、3は「AはAではない」と言っているわけだから論理的に不可能だが、それ以外の5や6などは、実際にはありそうもないというだけで、論理的に不可能とは言えないことに注意しよう。

問3は少しややこしいが、「そうだとすると～」に係る文末は「～ということになる」だけなので、最後は1だとわかる。すると、「証拠は外面的なこと～」→「私はここで証拠しか手にしえない」→「私が直接知りうることはただ外面的なことだけであり～」というように、きれいに文脈がつながるので、2→1→3が正解。

問5の(g)はやや難しいが、文脈を考えれば、「木偶人形」で正解だろう。

問6は、問5の答えを踏まえれば、「痛みを感じない人間」でよい。

問7は、簡単に言えば、「他人の痛み」が他人のふるまいだとしても、「自分の痛み」は「自分が感じているその感覚」でしかありえないので、行動主義ではその矛盾を解消できない、ということだろう。その点を、字数に合わせて説明すればよいはずだ。

総じて言えば、落ち着いて取り組めば解けない問題はないので、ケアレスミスをしないように注意しながら、一つずつ確実に答えていくことが大切だ。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>